

道心

編集 日光山 禅昌寺「道心」編集室
発行 平成14年4月15日
〒732-0002 広島市東区戸坂山根3-2-7
☎ 082-229-0618 zenshoji@bronze.ocn.ne.jp



高祖道元禅師七百五十回大遠忌 焼香師拜命に寄せて「慕古心」

住職 横山 正賢

今年九月二十九日は、大本山永平寺をお開きになった宗祖道元禅師様の七百五十回目のご命日に当たり、曹洞宗門では昨年のご生誕八百年記念と併せて、平成十二年十月二十三日にアメリカ・サンフランシスコ・スタンフォード大学での道元禅師シンポジウムから始まり、北米各地、ハワイ、ブラジル、ヨーロッパ七カ国など世界各地で記念行事に取り組んで参りました。

今や宗祖道元禅師のお示しになられた坐禅を中心とした仏教が世界の学者・宗教者をはじめ多くの人々の関心と信仰を集めているのであります。

大本山永平寺に於かれては、今年三月二十三日より七百五十回大遠忌法要が始まり、十月二十日まで厳修されます。この大遠忌法要に当たり私に、だいほんざい いへい かいしん ぎさき ぎさき ぎさき大本山永平寺貫首宮崎奕保禅師様より、今年三月二十三日大遠忌法要初日三番目の「愚中諷経」(午前の御茶果をお供えする法要の焼香師(法要導師)を勤めよとのご下命があり、五十年に一度という勝縁を有難くお受けした次第です。

昨年の夏より焼香師随伴の本山参拝をお誘いしましたところ、末寺道心寺方丈始め十二人、禅昌寺檀信徒並びに縁者、参禅会員等六十名、総勢七十二名のご参加を頂き、その大任を無事勤めることが出来ました事衷心より感謝し、ご報告申し上げます。

宗祖道元禅師は、寛元元年(一二四三)七月、都を遠く離れた越前の地に仏道修行の道場を移すことを決意されて、翌年の七月最初の伽藍が建立されさんしやうほうだい傘松峰大仏寺と命名されました。寛元四年吉祥山永平寺と改められたのであります。この頃の冬にお詠みになられた詩偈に

西来祖道我傳東 西來の祖道 われ東に伝える
釣月耕雲慕古風 月に釣り雲に耕して(不断の精進の意古風を慕う)
世俗紅塵飛不到 世俗の紅塵飛んで到らず
深山雪夜草庵中 深山雪夜草庵の中

と深山幽谷に籠もられて坐禅修行と宋の國にご留学中習得された仏道の真髄を記述される事に専念

され、現在曹洞宗門の所為の聖典となっている「正法眼蔵」を今日に残されたのであります。

その教えはあまりにも深くかつ多すぎますが、私の宗教活動の最も拠り所とし、坐禅修行の拠り所としている一節をご紹介しますと、正法眼蔵げんぼうがんそう現成公案の巻に

「仏道をならふといふは、自己をならふなり、
自己をならふといふは、自己をわするるなり、
自己をわするるといふは、萬法に証せらるるなり、
萬法に証せらるるといふは、自己の身心、および
他己の身心をして脱落せしむるなり。」

とあります。仏道とか仏様と言えば、人間とはかけ離れた崇高な所に御座すと考え勝ちであります。が、宗祖道元禅師は前述の通り「仏道も仏様も己を離れて別に有るものではない、仏とか人間とか、自己の身心、他己の身心と言う分別を離れて、天地自然のありように証入されるとき、人とも仏とも思わぬとき仏(仏道となる)」という意を論じて居られるのであります。現代世界の宗教学者並びに仏教研究者の間ではこの「正法眼蔵」の研鑽が盛んに行われているのであります。また禅の道場もアメリカを始め、南米・ヨーロッパ各国・オーストラリア等で盛んとなり、世界の人々の信仰を集めているのであります。

道元禅師様が日本へ伝えられた仏道が今や地球を東回りて世界に敷衍しているのであります。私自身浅学非才の身でありながら、宗祖道元禅師様に導かれて今日有る事をこの上ない法悦に存じております。

このようなことを思いながら、三月二十三日の

法要の法語に

西来祖道親分付

日々宣揚洞上宗

七百五旬不変月

靈光普照万邦峰

禅師のお伝え下さった西来の祖道は人々に親しくゆきわたり、日々その御教え（洞上宗は宗門の根本の宣揚に勤めております）。

七百五十年変わらぬ月が、世界中の峰を照らすが如く御教えは世界に敷衍しております。

と言う意味を込めて詠ませていただきました。

宗門は宗祖道元禅師七百五十回大遠忌記念事業のテーマを「慕古心」と掲げました。その意味は今日の日本を考えると今一番大事なことは、文字通り宗祖道元禅師の御教えをお慕いし、私たちの信仰を正してみようと言うことです。これからの私自身の課題として皆様と共に、宗祖の御教えの原点に立った仏道の実践と後継者の育成に一層の精進をして参りたいと考えております。

先日、「国境なき医師団」に参加しておられる貫戸朋子さんのドキュメンタリーを見ました。貫戸さんは、世界中から集まったボランティアの医師の一人として、ボスニアやソマリア、スリランカ等内戦の続く地域へ派遣され戦災に遭った人達の救済に当たっておられるそうです。お話しをお聞きすると、それは大変なお仕事のようです。酸素ボンベが一本しかなく次の補給がいつあるかわからないときに、白目をむいて、息を切らしている子供をつれ

「仏の御いのち」

北アメリカ開教センター勤務

横山 泰賢

た母親が病院に来たことがあるそうです。貫戸さんはとつさに「この子はおう助からない」と判断され、五秒ほど酸素吸入を行って止めたそうです。それは、この酸素ボンベ一本で後何人の命を救えるかもしれないという判断もあつたこのことですが、酸素吸入を止めるか否か、誰にもどちらが正しいと判断しかねるぎりぎりのところでいつも働いておられた事が良く伺えます。しかも、戦地で危険を冒しての勤めなのです。それでも、貫戸さんは自

分は幸せであるといわれます。もし戦地で死んでも悔いはないと言われている。何故なら、自分が選んで自分のやりたいことをしているから、そしてぎりぎりのところで一人でも多くの人が救われたとき自分も救われると言っておられました。

また、最近五木寛之さんの「大河の一滴」という本を読みました。敗戦当時五木さんは平壤におられたそうです。が、妹をおぶり弟の手を引いて38度線を走って逃げたそうです。その時もし

弟が途中で転んだらそのまま置き去りにして逃げようと思つていたそうです。ぎりぎりのところで一生懸命生きている

と、自分のわがままや感情からではなく全くこだわりのない判断がなされ、その判断は善悪の分別を超えています。私の友人に、病床の父親と難病の妹を抱えて、休む暇もなく一生懸命生きている人が居ます。その一生懸命生きている様は美しく綺麗です。また、私の同級生で焼鳥屋をしている人が居ます。彼はなかなか頑固な男で、自分の哲学にあわなない人を切り捨てるような処がありますが、頭にはちまきを巻いて、汗を流しながら一生懸命焼き鳥を

焼いている姿が、「生きている」と叫んでいます。

禅仏教に「生死事大」という言葉がありますが、「生死を明らかにすることが一番重要な事である」という意味です。修証義の第一章に「生を明らかに死を明らかにするは仏家一大事の因縁なり」とあるのもそのことです。我が宗祖は「この生死は、即ち仏の御いのちなり」（正法眼蔵生死の巻）と言われ、生と死を二つに分けるのではなく、「仏の御いのち」として一つであると説かれております。そして、この生死を嫌い捨てようとするのは、仏の御いのちを失おうとすることであり、この生死に執着すれば、これも、仏の御いのちを失うことだと言われています。嫌ったり、好いたりしないでそのまま頂戴する。難しいことですね。

心を以て、はかることなかれ、ことばをもって、いふことなかれ、ただ、わが身をも心をもはなちわすれて、仏のいへになげいれて、仏のかたよりおこなわれて、これにしたがいもてゆくとき、ちからをもちえず、こころをもつひやさずして、生死をはなれ、仏となる。

（正法眼蔵生死の巻）

道元禅師 七百五十回大遠忌に参拝して

米子市 笠木 宏



大本山永平寺 高祖道元禅師七百五十回大遠忌
横山正賢老師焼香師記念 禅昌寺・道心寺参拝団 平成14年3月23日

山陰の米子より御縁あつて、姉と一緒に参りに行かないかの誘いに迷いなく参加させて頂くことになりました。

二十二日朝八時集合との知らせに、五時三十分起床、身支度を整え出発。定刻には皆様方がお集りになり、方丈様の御挨拶の後、石田添乗員よりバッチを受取り修学旅行気分。ひかり百十四号定刻発、一路福井へ。途中ちらほらと咲きそめる桜を眺め、新大阪駅でしばしの待ち合わせの後、京都の加茂川の流れも清らかに、湖西線から望む琵琶湖も波静か、琵琶湖周遊の歌声でも聞こえそうな春なかばの穏やかさ……。

いよいよ福井到着。駅近くでお疲れ様といたわるような、やさしい眼差しのガイドさんの声に励まされバス二台に乗

り込み、まずは東尋坊へと北陸平野を走り抜け無事到着。約一時間海岸の絶壁奇岩など、打ち寄せる日本海の荒波をカメラに収め、車が引き返すように永平寺へ。

希望と不安を胸に杉木立のなか、荘厳な建築のたたずまいに思わず息をのむ。まずは予定表を各自いただき思わず驚いたのは、二十三日早朝の起床時間である。三時二十分に起床、二十分間で着替え洗面を終え、三時四十分には廊下に男女別二列に並び法堂へと長い廊下階段を進む。外は未だ残雪も見かけ、暖かい部屋からいきなり暗い寒いところへ、身も心も凜然と法堂に納る。やがて左手より鐘が祈りの始りを知らせるように、ゆつくりと境内に響きわたり、両脇より祈りを取り仕切る僧侶が祭壇近くに十数人。そして修行僧百名近くの行列が須弥壇の両側へ整い、ぬかずき読経が地の底から湧きあがってくるような、感謝と償い讃美の祈りが一糸乱れず、私は魂のゆさぶられる想いで涙が

あふれ、歓喜のひとつきを味わいました。本当にこれぞ三千年の歴史のなかで、印度より中国の高僧がはるばる身の危険をいとわず、更に道元禅師が東シナ海を渡り、ここ永平寺にその教えを広める為建立。今ここに凝縮された祈りが鐘の音、太鼓、木魚、小さな鐘が実に調和よく鳴りわたる修行僧の合唱に身も心も喜びに溢れ、両親の声も、よくぞお参りしてくれたと喜んで顔の想像しました。然しこの感謝は決して自分だけのものにせず、少しでも社会の為に役に立つことをしなければと反省しきります。

いきなり話題は百八十度後ろ向き。輪島の宿で、道心寺の方丈さんが言われた言葉。師匠に当る禅昌寺方丈さんのことを「むつり型」と横山方丈さんに言わしめた言葉、さすが太いさずなで結ばれたお二人だと思いましたが、お参りに参加された諸兄姉の方々如何に。各方丈様、檀家の皆様の御健康を祈りつつ

合掌

平山美術館を訪ねて

道心会会員 神成 昭治

1 画伯の郷里、生口島へ

私の兄は絵画の教師、姉は日本画大賞展で入選し、絵に凝っている。ところが、どうしたものか私ときたら絵は全然ため。手に筆をとっても踊って、形がでさず絵にならない。そのためだろう、中学以来絵筆を握ったことは一度もない。

しかし、不思議なものである、絵画鑑賞は満更嫌いではない。そのためか、倉敷の大原美術館に出かけたり、わざわざ東京までモナリザ展に出かけている。それだけではない、山口で開かれたミレー展にも行っている。

そうした私が、平山画伯に引かれたのはシルクロードを題材にした「平和のキャラバン東(太陽西(月))」を目にした時だった。私が心にとめていた曲「月の砂漠」のイメージが目前にあるではないか。夢にしていた月の砂漠、果てしないロマンを連想させる砂漠。私は、可能な限り資料を集め画伯を知ろうとした。

丁度その頃であった、画伯の郷里に美術館ができる。是非訪ねよう、列車と船を乗り継いで。そう思ったのも、画伯が画業に生きる決意をされるきっかけとなったのが原爆であった。被爆

2 絵画鑑賞

(1) 月の砂漠

空は五月晴れ、さわやかである。薄アイボリーの美術館、一周年を記念する特別展とあり、67点の作品が展覧されていた。目を見張るばかりの華麗さ、筆の一筋一筋にやさしさとその偉容さに感嘆せずにはおれなかった。中でも、一瞬私の目を釘付けしたのが月域月採(パルミラの遺跡)、流砂浄土変、法隆寺夜桜であった。それらの作品には一つの流れがある。女王の都に栄えた文化が、キャラバンの背に乗せられ長安の都へ、そして日本の都へ伝えられた。その中には月の輝きがあり、果てしない旅がある。東の空にある月の輝きは、なんとという美しさだろう。なんの隔たりもなく、慈しみ、愛に満ちた輝きをたたえている。パルミラで観る月も、奈良で観る月も時を越え、国を越え、宗教を越え、民族を越え平和の尊さを語りかけているではないか。

それに対し、人のなせる業はなんと愚かしいことであろう。

(2) キャラバンの旅

更に私の心に印象付けたものがある。それは、

された画伯は腐心列車と船を乗り継ぎ、やつとの思いで生口島へ帰り着いている。画伯の志に少しでも触れたい、そう考えたからである。

キャラバンである。数十頭いや数百頭のらくだを連ねての砂漠の旅である。東から西へ、西から東へ絹の織物や経典をらくだの背に載せ、幾つもの砂漠を乗り越え都と都を結んでいる。女王や身内のみ送りを受け、出で立つた先にはいつ襲い来るかも知れぬ砂嵐や喉の渇きに苦しい旅が続いたに違いない。しかし、大いなる使命と目的を担った旅は、砂漠に咲く芳しい百里香の香りに勇気づけられ、オアシスでの憩いで活気づけられ、苦難を克服し見事責務を果たしたのである。そこには愛する人の喜びがあり、更には大勢の民の歓喜がある。そこに雄大なロマンを、私は感じるのである。

3 先を見つめて

見落としてはならぬことがある。

(1) 画伯の志

画伯は美校(東京美術学校)に入学して間もなく、激しい自己不信に陥ってしまった。ただ絵が好きで自由に絵を描いてきた少年が、日本画という分厚い伝統の世界や、歴史や多様な広がりのある美術の世界に初めて触れ、驚きとショックに翻弄され、その絶望感のあまり「退学願」まで考えていた。更に、原爆による放射能障害が絶望感に追い打ちをかけ、ジリジリとあせりを覚えていた。

その時、脳裏にいきなり一人で旅をする僧の姿が浮かんできた。砂漠である。蜿蜒と続く流砂の道を歩いている。砂漠の中を何を求める旅なのか、力尽きそうになりながら歩みを止めた

い。今、その僧はちょうどオアシスに辿りついたところであった。「これだ」この絵を描きたい。この絵が、私の道を拓く。そう確信した。それにしてもあの僧は一体誰なのか。そう考えたとき「玄奘三蔵」だと思った。玄奘三蔵が私に進むべき道をおしえてくれたのだ。

こうして苦境を乗り越えた画伯は、宗教画と風俗画との違いを次の様に述べている。宗教画は見る人に宗教的な感興を与えるのを目的とし、精神的な感動を与えることが絶対的な条件となる。それと比較して風俗画の場合は、現実の風俗を活写し、自分なりに再構成したとしても、

現実に存在している具体的なものからは逃れられない。宗教画が美術として高い水準に達しているのは、この目的の違いからくるものだ。精神的な感興を与える。それには文学書や哲学書を読み、古典を勉強し、歴史を学ぶことなのだ。人間の精神が貧しくてはいい絵など描けるわけがないのだ。

(2) あるべき方向

文明や文化はらくだの背に揺られパルミラから長安へ、長安からラホールへ絶えることなく往還された。交易による繁栄は双方の利益をもたらし、絢爛たる文化の花を咲かせた。ところ

が、一つ例外がある。それは、東の果てに位置する国である。双方の交易がないばかりか、誉れ高い文化を一方的に享受し続けたのである。それは、それで良い事だが、悪いことに、恩に報いるに暴をもつてなしたのである。法隆寺にかかる夜桜の月は、画伯の心である。それは自然の心であり、いにしえより続く日本古来の心である。画伯の心、それは、徳をもつてせよである。広い知識の吸収と現実に基づいた実行力。更には、あらゆる困難を克服していく勇氣と精神力。私の旅も始まったばかりである。

は二人の娘が素直に育ってくれたのも、未熟な私を少しづつ軌道修正して下さったお陰のように思っております。

以前から機会があれば一度坐禅を体験してみたいと、元来好奇心旺盛な私は或る日、戸坂の禅昌寺で婦人坐禅会の案内を新聞で知りました。当時は主人の勤めの関係で戸坂で杜宅住まいをして居り、思慮のとばしいまま早速、勇氣を出して、由緒あるお寺に足を踏み入れ、縁

又、坐禅会の中所さんのコースリダーの下で、坐禅会のお友達数人で時々、平日登山に連れてつて

頂き、広島近郊に登山の出来る素晴らしい山が沢山あることも知ることが出来、四季折々の山の様相を肌で感じ、何度となく感動したものです。現在では三次の山の会にハマッ

ている次第です。

八年前に主人の故郷、三次に転勤となり、今までのように坐禅にも通えなくなりましたが、年二回、春秋の青山俊重尼老師さまのご講演には欠かさず参加させて頂いております。

縁に感謝

三次市 上岡 信子

をいただいて、早いもので十数年の歳月が経ちました。それから暫く坐禅に通い続けているうちに、静寂な坐禅のひとつは私にとって週一度の欠かせない楽しい贅沢な時間となっております。それに坐禅「二」の後、方丈さまの何時も、やさしく語り掛けて下さった、ご説法



今回、趣味の会、白滝・黒滝山登山に初めて参加させていただき、久しぶりに禅昌寺檀家の皆様、坐禅会のお友達と一緒出来て、有意義な心温まる一日でございました。二月の寒い時期、曇り空とはいえ風もなく、比較的登山に向いたお天気でした。

青笹さんは、以前に足の怪我でハンディがありながら、登山に挑戦されました。無事登り終えた感激の笑顔に、重たいカメラを首にかけ皆さんの写真を沢山撮り続けられ、生き生きとされた表情が今でも心に残っています。

これからも少々遠距離ではありますが、坐禅や行事には許すかぎり、お邪魔させて頂きたいと思っています。生かしていただいている事に感謝をして、一日々々を大切に過ごさせて頂きたいと思う今日この頃でございます。

◆道心・趣味の会◆

短歌

「思い出の歌」

幼くて路地に遊びし日を恋いぬ

友らの声よ花いちもんめ

ひたひたと波打つ岸に君は立ち

得々と述ぶる引力の法則

青春の記憶の中にある君は

いまわが町に住むやゆたけく

東区 矢野淑子

俳句

早春の遠き記憶は野より来る

甲田苔水当山二十一世遺稿集より

田鏡に空一点の鳶借りる

風待ちて又風待ちて畦の野火

春のバス寄り掛かれし慈悲心

安佐北区 岡村竹畔

海よりも寒しとこぼす浅利売

月おぼろ猫背となりし船大工

一輛の電車がむせぶ花菜畑

東区 河野貞女

法堂に二列が進む彼岸の朝

杉木立まさに来ました春の寺

東区 青戸美智子

箒目を立てたる庭に花吹雪

禅峰

◆行事報告◆(二月～四月)

- ・年頭座禅会並び祈願法要 一月一日
- ・登山の会 三原市白滝山 二月二日
- ・青山俊重尼老師講演会 三月一日
- ・彼岸法要&護持会総会 三月十六日
- ・道元禅師七百五十回大遠忌
- ・本山参拝 三月二十二日～二十四日
- ・(七十二名の方々に参加頂きました)
- ・登山の会 東区松笠山 四月六日



登山の会 三原市白滝山にて(2月2日)

◆行事案内◆(五月～七月)

●日帰り旅行 五月二十二日(水)

- ・行き先 湧永庭園・高宮湯の森
- ・お寺を八時半出発 四時帰着の予定
- ・参加を希望される方の出来るだけ近くのバス停までお迎えし、お送りします。
- ・参加費五千元(昼食含む・入湯料は別) この時期バラ園が素晴らしいですよです。
- ・檀信徒を問わず、お友達を誘ってご参加下さい。
- ・参加ご希望の方は、四月末日までに電話でお申し込み下さい。
- ・電話〇八二―二二九―〇六一八番

●登山の会 六月十五日(土)

- ・行き先 福王寺山
- ・集合場所 可部線可部駅 九時半
- ・参加ご希望の方はお電話下さい。
- ・雨天中止

●お盆前諸堂掃除 七月二十八日(日)

- ・午前十時より お子さん・お孫さん
- ・と一緒に奉仕下さい。ご昼食に「そーめん」を用意しています。

●定例行事

◆御詠歌の会

- ・毎月第二金曜日 十時より
- ・第四金曜日 九時より

◆囲碁会

- ・毎月第一・三日曜日 第二・四木曜日
- ・午後一時半より

◆上田宗箇流茶道稽古日

- ・五月八日(水)
- ・五月二十二日(水)
- ・六月十二日(水)

◆坐禅会

- ・暁天坐禅 月曜日～金曜日 毎朝五時十分より
- ・水曜日坐禅会 毎週午後七時より
- ・婦人坐禅会 毎週金曜日午後一時より
- ・お友達を誘い合わせの上、ぜひご参加下さい。

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でもけっこうですお寄せ下さい。次号原稿締切は六月末日にお願いいたします。

今年に入つて若いお方が逝かれるのが気になります。
気がついたら手遅れもあれば、突然死もあります。
身体は定期的にチェックしましょう。